C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmfC:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf園長だより　令和２年度７月号（20200717）

園長　平澤　正則

コロナの福

コロナ禍の渦中ですが，もし園内においてコロナに福があるとすればそれは何かといえば，様々な行事が延期・中止になり，比較的のんびりと自由に過ごす時間がもてたということだと感じています。それなら英語活動，体育教室，コーラスをはじめ年間行事計画にある諸行事をなくしたり，減らしたりすればいいじゃないかというのはいささか飛躍し過ぎです。子どもたちに様々な経験をさせ，努力の結果の達成感を味わわせたりするためには前述の諸活動も意義あることだと思うからです。何事もバランスです。とここまで書いて思い出したことがありました。

私の好きな将棋の世界に「永世棋聖」の称号を持つという人がいます。８年前に６９歳でこの世を去りましたが，この人は分かりやすい将棋解説をはじめ実に様々な話を楽しくしてくれることで有名で人気があり，人望もあるため日本将棋連盟の会長を務め，その魅力的な教育観も多くの人に支持され東京都の教育委員にも推された人でした。その米長さんの言葉を思い出しました。『今の学校教育は１００人に１つのやり方で教える方法であり，これでは天才はつくれない。１００人の人間すべて同じように国語が必要で算数が必要で理科が必要とも思われない。その1人の人間がもつ能力を引き出し伸ばすにはその人が自らのめり込むような努力ができる機会と場を作ってやらなければならない。』要約するとこのような発言だったと思います。今将棋界で話題の藤井聡太七段は天才と呼ばれる高校３年生ですが，だからといって東京大学に入ろうとは思っていません。まあ当たり前でしょうが，つまり，今の学校教育の大きな流れに漫然と身を任せているだけでは大成することは困難であるということの証です。

ちょっと大きな話になってしまいましたが，振り返って我が幼稚園を考えると，他園並みにいろいろなことを子どもたちにやらせ，強いる姿勢は反省すべきことかもしれないと思うわけです。そんな中このコロナ騒ぎにより園内で自由に遊べる時間がもてたということは，自由に考える時間がもてたということであり，それこそが子どもたちの可能性の芽を育てる大切な機会でもあったわけです。そう考えるとじっくりと好きなようにさせておくことの意義が理解できると思います。もっとも先生方はじっとしていたわけではなく，逆に自分たちが創意工夫を強いられる時間でもあったのですが…。

しかしながら，我が園の子たちに勝手に，好きなように，毎日やらせてみることは大変な冒険であり（先生方が一人一人の子どもに一々対応しきれないということ），面白そうだとは思いながらも決断はできません。まあ、それは家庭でやっていただいているのでそれでいいとも言えますが。

ほぼボーッとしているだけに見える子がいたとしても実はそうではないかもしれないし，そもそもそれを何日こちら側が我慢していられるか，私たち教師や保護者の全員の共通の理解を得るのは至難です。先ほどの藤井聡太七段にしても幼稚園時代にただ放って置かれて将棋を覚えたのではなく，祖父母により刺激を受けたのが始まりだと本人が言っています。

だから私たちはその“刺激”を与えるべく毎日あれやこれやと考えをめぐらし頑張ろうとしているわけです。その一端はホームページのブログ欄で紹介していますのでご覧ください。ただ，その結果が今のところ英語活動やコーラスをはじめとする年間行事計画ですが，まだまだ改善の余地はあると思い、少しずつではありますが，毎年見直しはしています。

自粛中には行事の準備に割かれる時間がなくなったことにより先生方は思い思いに保育室内外での子どもたちとのふれあいを楽しんでいるようでした。指導者自らが楽しめなければ本当に子どもたちに楽しさは伝わらないし，一体感も生まれない，長続きもしないということになります。

このコロナ禍の中，ささやかな福であったと思います。